m、2.2m、2.0m、1.85m、1.9m、1.8m、2.15m、2.25mである。柱掘り方は不整円形を呈し、検出面からの深さはＰ３～６は55～77㎝、Ｐ８～１は29～37㎝で尾根側が深く、谷部側が浅い。これは、東の台地平坦部から西の谷部へ向かって緩やかに傾斜しているためであり、全ての柱底面の標高は68.73～69.10mに収まる。尾根側の柱列Ｐ３～６は柱当たりが確認でき、底面の径は30～38㎝であることから柱径もほぼこれに近いものと推定される。

柱列に囲まれたほぼ中心部には、長軸58㎝、短軸40㎝、深さ６㎝の不整円形をしたＰ11が検出され、内部から赤彩された土師器坏84・85と甕92が一括出土している。

埋土と遺物の出土状況　柱穴埋土の多くが炭化物と焼土粒子・白色砂粒を含む①・②層暗褐色土から構成されるが、いずれも明瞭な柱痕を示すものは認められなかった。Ｐ１・５の埋土中からは拳大の礫が中心部に固まって出土したが、これらは柱抜去後に投棄されたものであろう。Ｐ２埋土中から須恵器甕破片93が、Ｐ３からは大形の台石Ｓ23と土師器甕90が出土している。ところで、本遺構はＳＢ６と重複しているが、新旧関係はＰ１がＳＢ６-Ｐ４に切られている状況から、ＳＢ５を廃絶して埋土が形成された後にＳＢ６が構築されたことが明らかとなった。ただし、ＳＢ５の柱穴は木柱痕を残すものが少なく、遺物や礫が投棄された状況を示していることから、人為的な埋め戻しの可能性が高いこと、さらにＳＢ６からもほぼ同時期の遺物が出土していることから両者の時間幅は比較的短期間であったものと考えられる。

出土遺物　出土土器は赤色塗彩がなされた土師器坏が多い。84～88は口縁が直線的に外反し、底面が丸味を帯びている。ヘラ切りした部分を未調整、もしくは粗いナデ調整のみでそのまま段を残しているものが多く、いずれも伯耆国庁編年第２段階に比定されよう。89は体部がやや丸味を帯びる高台付坏である。内外面赤色顔料が塗彩されている。90～92は口縁部が大きく外反した土師器甕であり、内面屈曲部には明瞭な稜を形成している。外面はナデ、内面は口縁部がヨコナデ、体部はヘラケズリが施される。93は須恵器甕の体部破片である。外面は格子タタキ目、内面には同心円状当て具痕がみられる。Ｓ25は安山岩製の台石である。上面に敲打による剥離が認められる。

時期　ピット内出土遺物の多くが伯耆国庁編年第２段階ＳＤ33～ＳＫ05様式に比定されることから、平安時代前期、９世紀代に廃絶されたものと考えられる。（小口）

第３節　土坑

本遺跡では総数90基の土坑を検出しているが、形態的特徴や出土遺物、壁・底面に残された被熱痕跡などから用途が推定されるものは25基であり、それ以外は時期も含めて不明なものが大半を占める。本節では、調査所見から推定される用途別に各土坑を詳述することとし、用途不明なものについては「その他の土坑」としてまとめて報告する。（高尾）

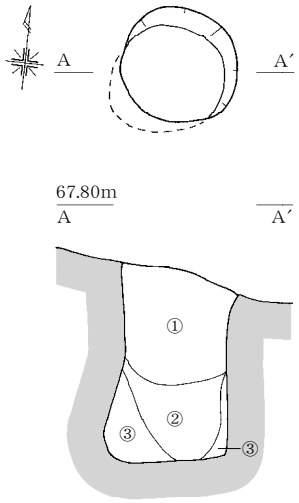
落し穴

ＳＫ26（第48図、PL.18）

Ｐ14グリッド、標高67.7mの平坦面に位置する。規模・形態は長軸63㎝、短軸60㎝の円形で検出面からの深さは106㎝を測る。埋土は３層に分層され、堆積状況は自然堆積の様相を示す。遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構形態から落し穴と考えられる。（福井）

ＳＫ28（第49図、PL.18）

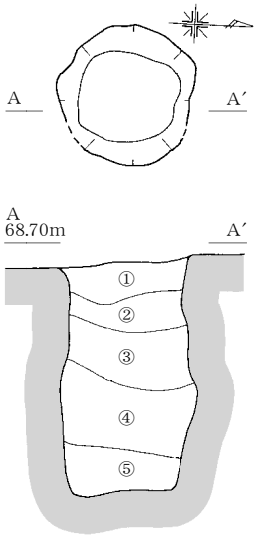
Ｑ14グリッド、標高68.6mの緩斜面に位置する。径0.7m前後で検出面からの深さは最大で1.27mを測る。平面形態は検出面で円形、底面で隅丸方形を呈する。底面ピットは検出されなかったが、形態的特徴から落し穴と考えられる。埋土は褐色土を主体とする5層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。（岩井）



①暗褐色土　径３㎜以下のホーキ粒多量。粘性強。
②黒褐色土　径３㎜以下のホーキ粒多量。粘性強。
③褐色土　粘性強。

S＝1：40　0　1m

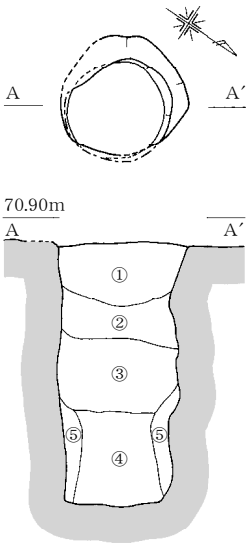
第48図　ＳＫ26



①暗黄褐色土　径５㎜以下の小礫中量。
②黄褐色土　径７㎜以下の小礫中量。
③黄灰褐色土　径２㎜以下の小礫多量、径５cm程度のホーキ粒少量。
④淡黄灰褐色土　ホーキブロック斑に含む。
⑤灰褐色土　ＡＴ・ホーキブロック斑に含む。粘性強。

S＝1：40　0　1m

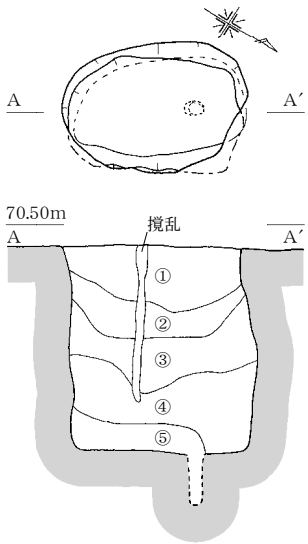
第49図　ＳＫ28



①黄褐色土　径２㎜以下の小礫多量。しまり強。
②暗灰褐色土　径２㎜以下の小礫斑に含む。
③褐色土　径３㎜以下の橙色砂礫、ホーキ粒少量。しまり弱。
④黒褐色土　径３㎜以下の橙色砂礫、ホーキ粒中量。しまり弱。
⑤黄灰色土　白色ローム含む。粘性・しまり弱。

S＝1：40　0　1m

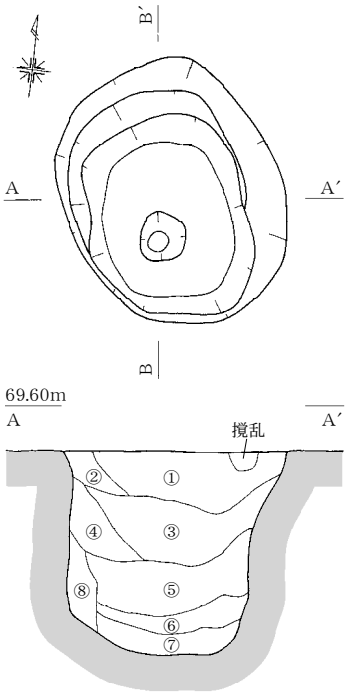
第50図　ＳＫ62

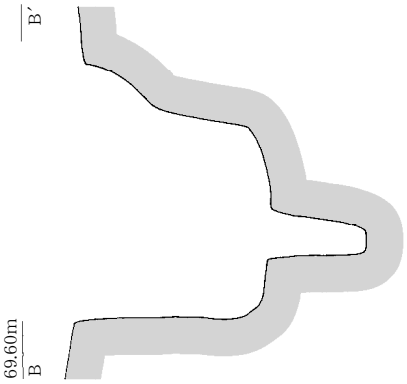


①淡褐色土　径４㎜以下の小礫中量。粘性やや強。
②褐色土　炭化物微量。
③黄褐色土　径５㎜以下のホーキ粒微量。しまり弱。
④黄灰褐色土　径１cm以下のホーキ粒、白色ローム少量。しまり弱。
⑤明黄灰褐色土　炭化物少量、ＡＴ、ホーキ粒含む。しまり弱。

S＝1：40　0　1m

第51図　ＳＫ79





①褐色土　径１cm以下の小礫少量。粘性強。
②黄褐色土　径５㎜以下の小礫微量。粘性やや強・しまり強。
③褐色土　（①より明）　径１cm以下の小礫微量。粘性強・しまり弱。
④淡褐色土　径３㎜以下の炭化物微量、径１cm以下のホーキ粒少量。粘性強・しまり弱。
⑤淡褐色土　（④より暗）　径３㎜以下の黄褐色砂礫含む。粘性強・しまり弱。
⑥褐色土　径３㎜以下の炭化物･黄褐色砂礫微量。粘性強・しまりやや強。
⑦淡褐色土　ホーキブロック少量、径３㎜以下の黄褐色砂礫多量。しまりやや強。
⑧暗黄褐色土　粘性弱、しまり弱。

S＝1：40　0　1m

第52図　ＳＫ80

ＳＫ62（第50図、PL.19）

Ｐ７グリッド、標高70.6mの丘陵平坦面に位置する。径0.67m前後で、検出面からの深さは最大1.37mを測る。平面形態は検出面および底面とも円形を呈する。底面ピットは検出されなかったが、形態的特徴から落し穴と考えられる。埋土は５層に分層でき、下層ほどしまりがなく、少量の地山土がブロック状に含まれていた。⑤層はしまりがなく、他の層で混入がみられないＸ層がブロック状となり主体となっていた。これは、一度人為的に埋め戻された層で、当遺構は再利用されたと考えられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。（岩井）

ＳＫ79（第51図）

Ｏ７グリッド、標高70.3mの丘陵平坦面に位置する。長軸0.98m、短軸0.69m、深さは検出面から底面まで最大1.08mを測る。平面形態は検出面および底面とも楕円形を呈し、断面は垂直に立ち上がる。底面は平坦で、中央よりやや北西側に底面ピット（径約10㎝、深さ約27㎝）を検出した。埋土は褐色土を主体とする５層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、形態的特徴から落し穴と考えられる。（岩井）

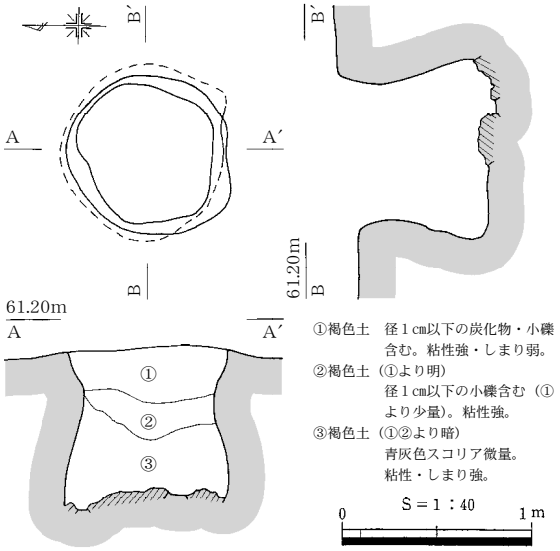
ＳＫ80（第52図、PL.20）

Ｍ７グリッド、標高69.4mの丘陵平坦面に位置する。平面形は楕円形、断面形は擂鉢形を呈する。しまりの弱い④・⑧層は壁体崩落土であり、それ以外は概ねレンズ状の堆積を示すことから、本遺構は西壁が崩落しながら自然堆積によって埋没したと推測する。径24㎝、深さ20㎝の底面ピットの存在と遺構形態から落し穴と考えられるが、遺物が出土していないため時期は不明である。（高尾）

貯蔵穴

ＳＫ17（第51図、PL.18）

Ｅ16グリッド、標高約61mの平坦面に位置する。北19mには、ＳＩ１が所在する。平面形態は上縁部・底面とも不整円形であり、断面形は袋状を呈する。規模は上縁部で長軸0.93m、短軸0.87m、底面で長軸0.93m、短軸0.85mを測る。検出面から底面までの深さは最大0.85m、基盤層の礫層を底面としている。埋土は、炭化物を含む褐色土①～③層から構成され、いずれも粘質に富む。遺物は認められなかったが、埋土はＳＩ１に近似していることから、廃絶時期も近いものと思われる。（小口）



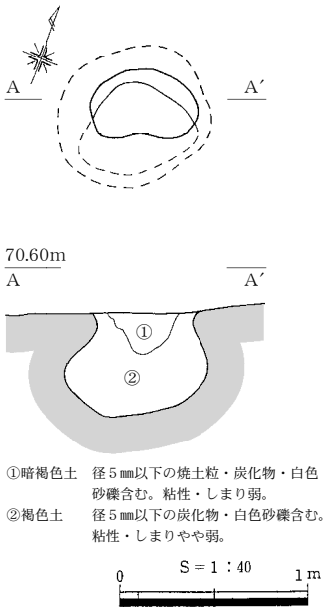
第53図　ＳＫ17

ＳＫ49（第52図）

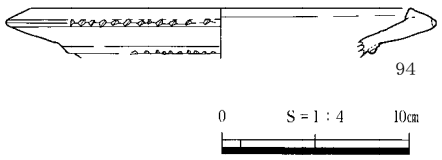
Ｔ９グリッド、東山南端寄り、標高約70.4mの台地平坦面に位置する。平面形態は円形で、上縁部で長軸0.56m、短軸0.34m、底面で長軸0.53m、短軸0.50mを測る。断面形は袋状を呈し、検出面からの深さは最大0.55mである。遺物は出土していない。（小口）

ＳＫ83（第55・56図、表42、PL.20）

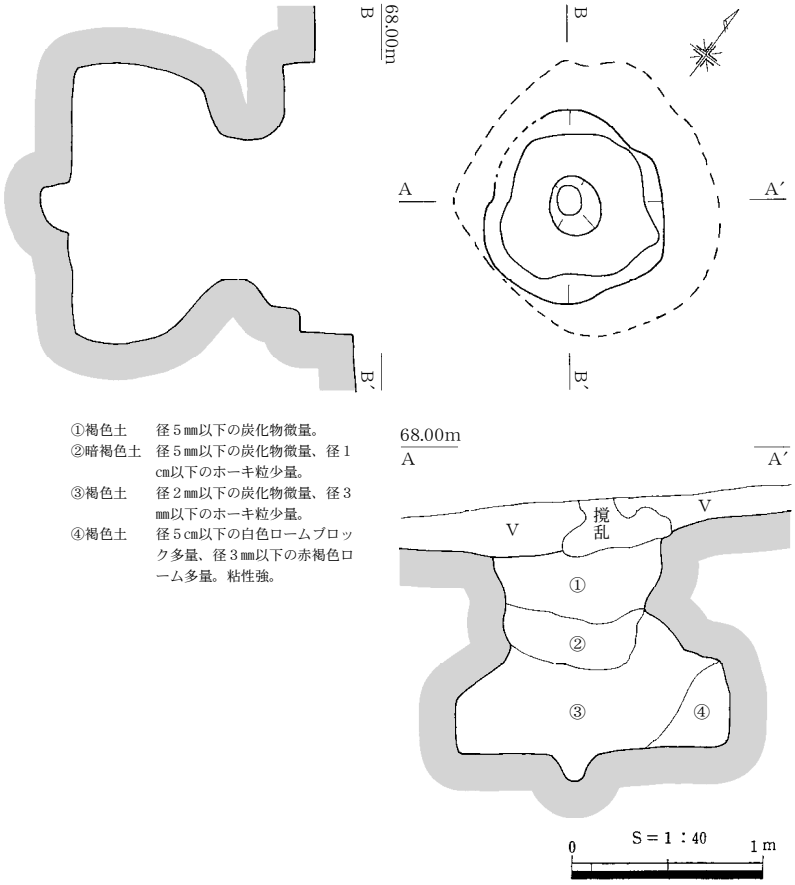
Ｉ10グリッド、標高67.6mの平坦面に位置する。規模・形態は長軸１m、短軸0.92mの不整円形で検出面からの深さは1.45mを測る。底面中央に径32cm、深さ15cmのピットをもつ。埋土の堆積状



第54図　ＳＫ49



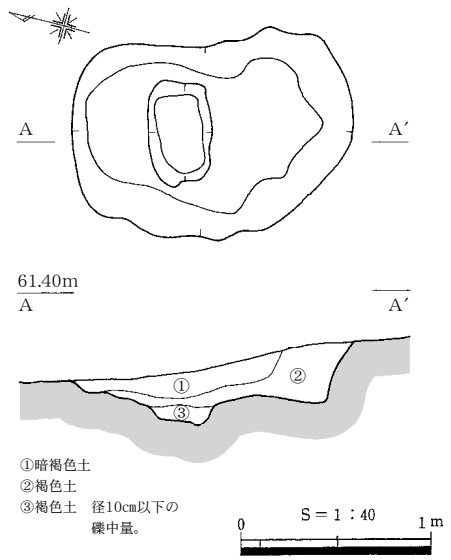
第56図　ＳＫ83出土遺物



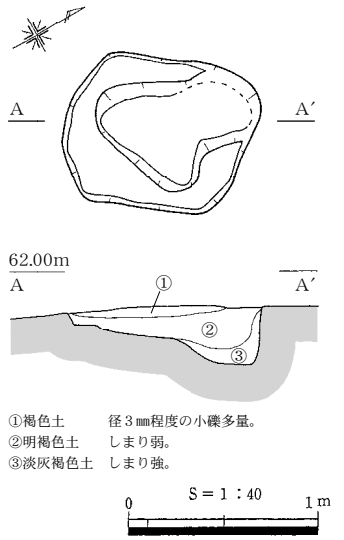
第55図　ＳＫ83

表42　ＳＫ83出土土器観察表

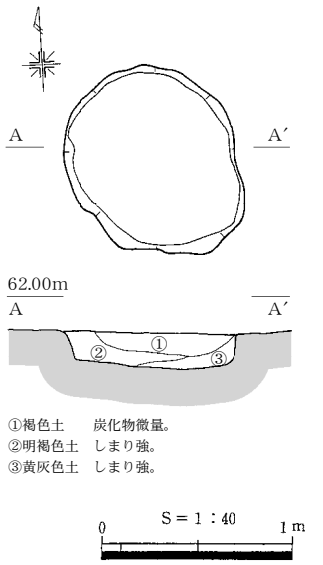
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
94	ＳＫ83 ３層	弥生土器 壺	※20.0 △2.5	口縁部1/4 以下	外面：口縁～頸部ヨコナデ、口縁部刻目、頸部貼付突帯上に刻目 内面：ヨコナデ	密　１mm以下の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	



第57図　ＳＫ２



第58図　ＳＫ４



第59図　ＳＫ５

況は自然堆積の様相を示す。遺物は清水編年Ⅲ－２様式に比定される壺が１点出土した。遺構形態・出土遺物より弥生時代中期以降の落し穴、もしくは貯蔵穴が考えられる。　（福井）

その他の土坑

ＳＫ２（第57図）

Ｈ15グリッド、標高61.1mに位置する。形態・規模は長軸1.45m、短軸1.04mの楕円形で検出面からの深さは0.45mを測る。埋土の堆積状況は自然堆積の様相を示す。時期は不明である。　（福井）

ＳＫ４（第58図）

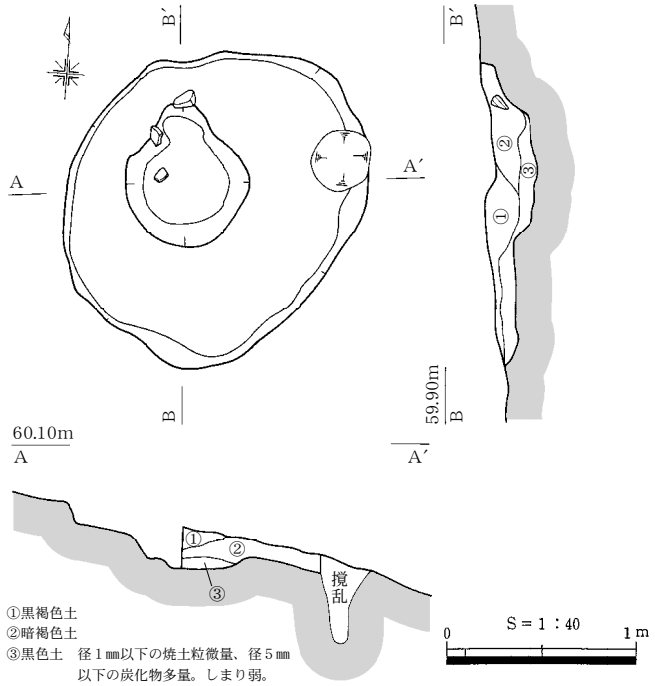
Ｃ15グリッド、標高61.8mの丘陵平坦面に位置する。長軸1.0m、短軸0.8m、検出面からの深さは0.3mを測り、平面形態は不整方形を呈する。底面は一段掘り下がる。埋土は３層に分層でき、褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）

ＳＫ５（第59図）

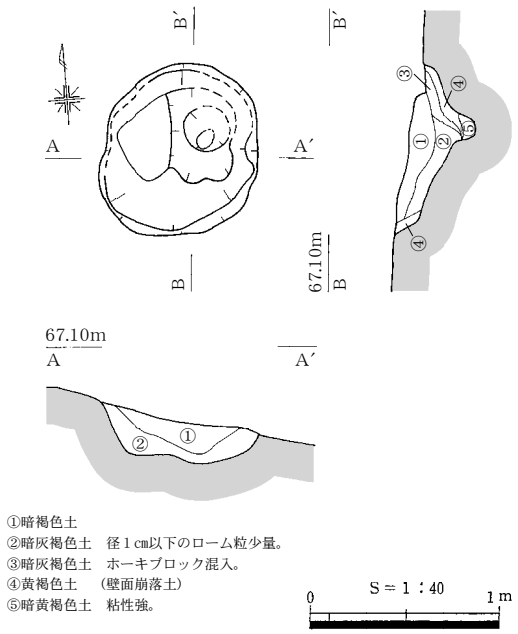
Ｃ16グリッド、標高67.8mの丘陵平坦面に位置する。長軸1.05m、短軸0.9m、検出面からの深さは最大0.22mを測り、平面形態は楕円形を呈する。底面の形状は平坦である。埋土は３層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）

ＳＫ７（第60図、PL.18）

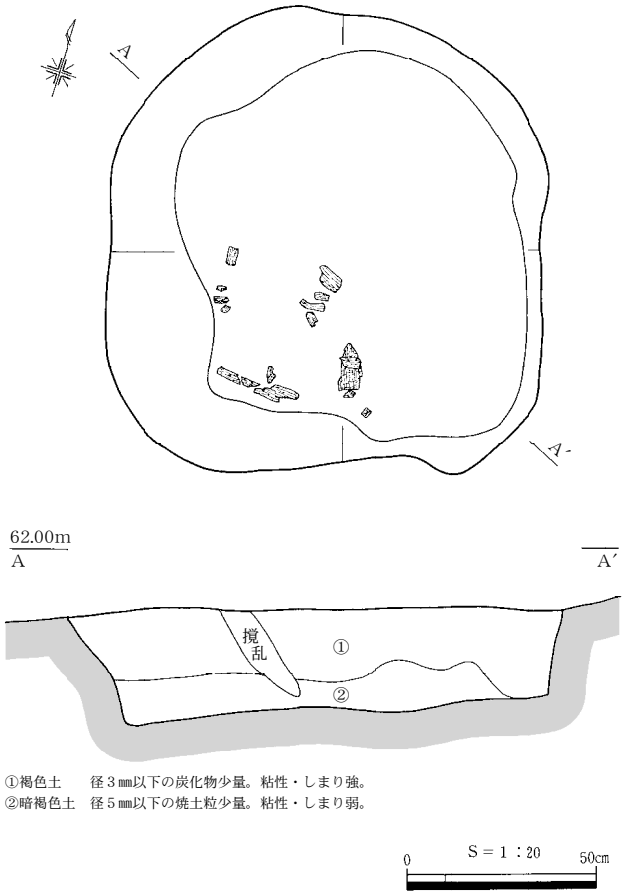
Ｅ15グリッド、標高60.5m、谷部斜面に位置する。形態・規模は長軸1.75m、短軸1.46mの楕円形で検出面からの深さは30cmを測る。埋土は３層に分層され、最下層からは炭化物が多量に検出されたが、被熱面は認められない。遺物は出土しておらず、時期不明である。炭化物の検出状況より、焼成土坑の可能性も考えられる。　（福井）



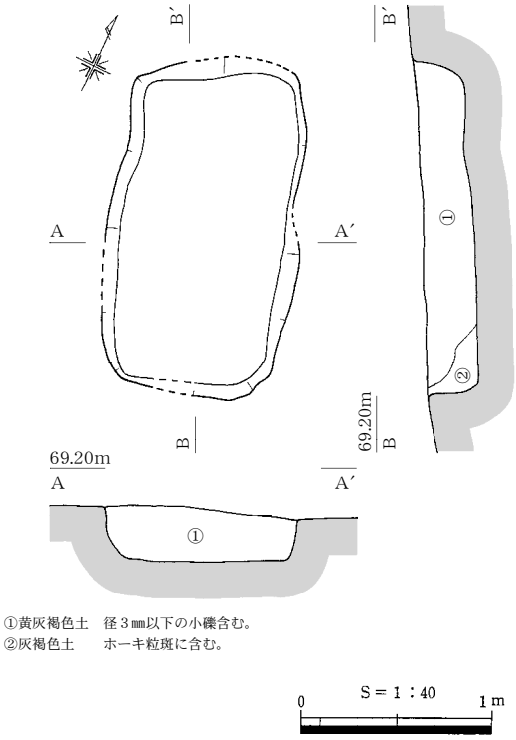
第60図　ＳＫ７



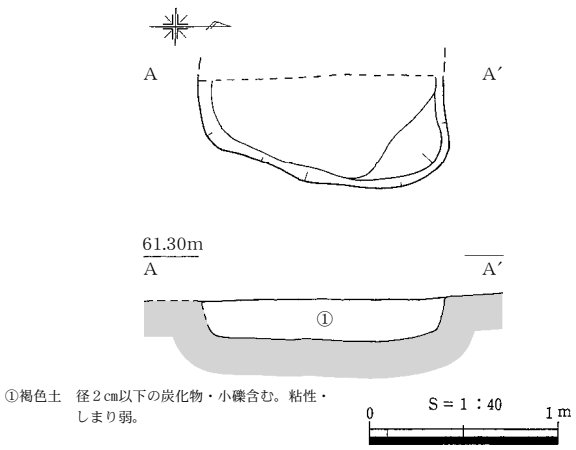
第61図　ＳＫ９



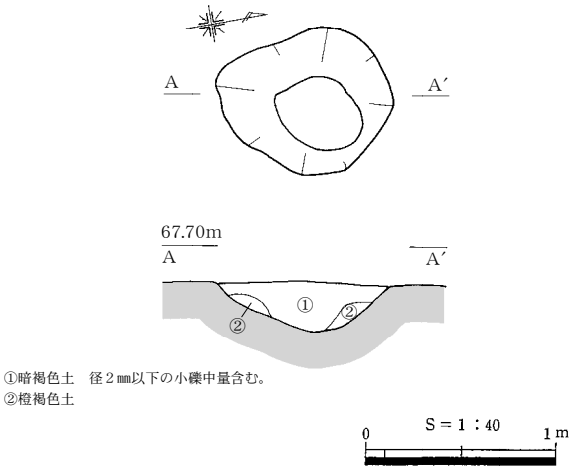
第62図　ＳＫ10



第64図　ＳＫ12



第63図　ＳＫ11



第65図　ＳＫ13

ＳＫ９（第61図）

Ｏ13グリッド、標高66.7ｍの東向き斜面部に位置する。検出面での平面形は長軸91㎝、短軸80㎝の円形を呈し、深さは最大で45㎝を測る。埋土中から土師器片が出土しているが、時期は不明である。

（高尾）

ＳＫ10（第62図）

Ｂ16グリッド、標高61.7ｍの緩斜面に位置する。形態・規模は長軸1.22ｍの隅丸方形で検出面からの深さは31㎝を測る。埋土は２層に分層でき、２層からは炭化物が検出される。底面には被熱面が認められる。遺物が出土していないため、時期は不明である。底面に被熱面が認められることから、焼

成土坑と考えられる。周辺の類似する土坑（ＳＫ１・３・27）との関連性も想定される。　（福井）

ＳＫ11（第63図）

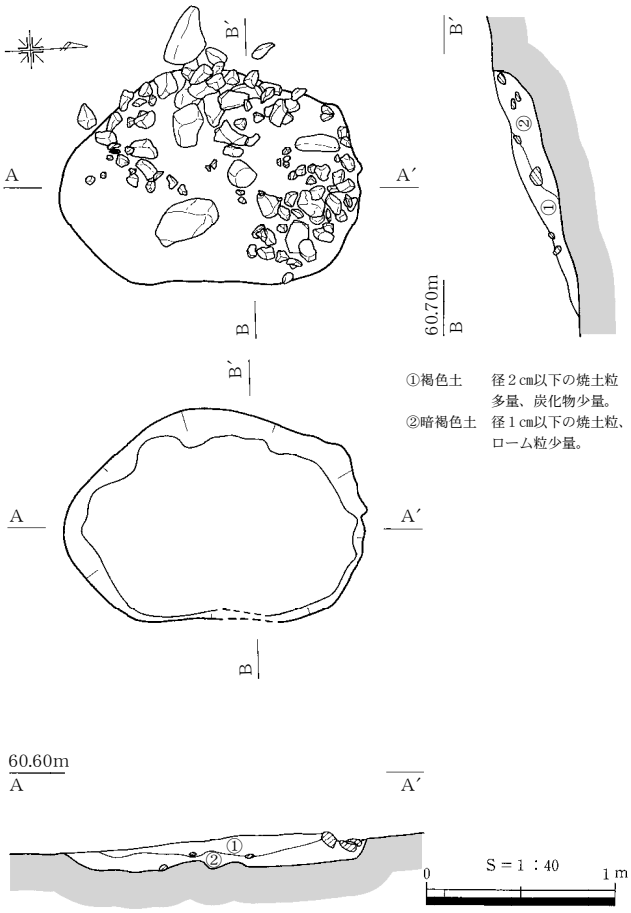
Ｄ15・16グリッド、標高61.1mの平垣面に位置する。土層確認用サブトレンチにかかり、全形は不明であるが、残存部から長軸1.3mの隅丸方形を呈するものと思われる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。　（小口）

ＳＫ12（第64図）

Ｐ15グリッド、標高69.0mの丘陵平坦面に位置する。平面形態は長軸1.77mの隅丸長方形を呈する。底面の形状は平坦である。埋土は２層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）

ＳＫ13（第65図）

Ｏ14グリッド、標高67.5mの緩斜面に位置する。長軸0.95m、短軸0.8m、検出面からの深さは最大0.37mを測り、平面形態は不整楕円形を呈する。埋土は２層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）



第66図　ＳＫ14

ＳＫ14（第66図、PL.18）

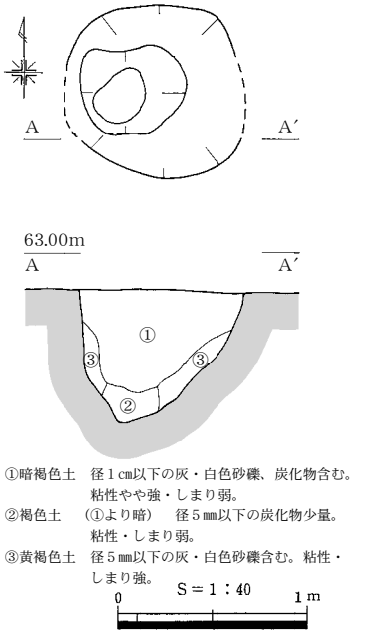
Ｇ15グリッド、標高60.4mの谷部斜面に位置する。規模・形態は長軸1.58m、短軸1.1mの楕円形で検出面からの深さは0.38mを測る。遺物は出土していない。時期・用途とも不明である。　（福井）

ＳＫ15（第67図）

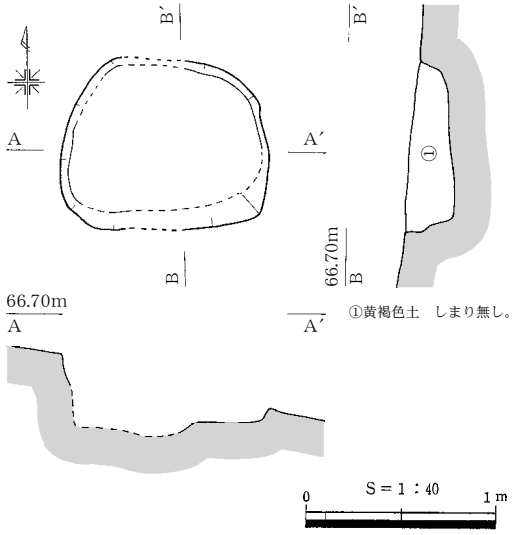
Ｈ16グリッド、標高62.8mの緩斜面に位置する。平面形態は径0.9mの円形を呈す。埋土は３層に分けられ、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（高尾）

ＳＫ16（第68図）

Ｎ13グリッド、標高66.5m～66.1mの東に下る斜面に位置する。長軸1.1m、短軸0.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。埋土はブロック状の地山土を多く含んだ単層で、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）



第67図　ＳＫ15



第68図　ＳＫ16

ＳＫ18（第69図）

Ｐ14グリッド、標高67.4mの東に下る斜面に位置する。長軸1.85m、短軸1.55m、検出面からの深さは最大0.3mを測り、平面形態は不整方形を呈する。埋土は３層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）

ＳＫ19（第70図）

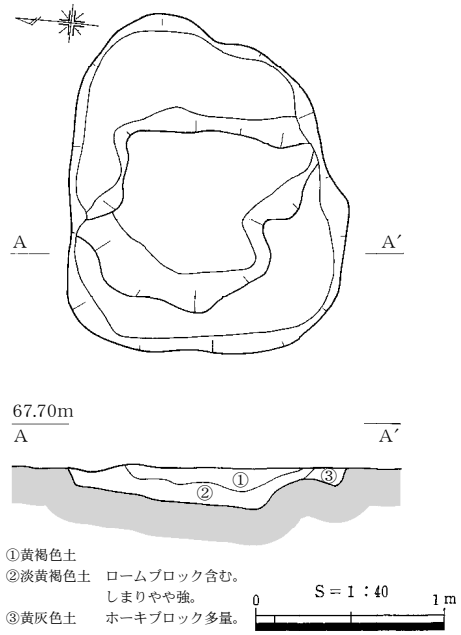
Ｌ15グリッド、標高67.2mの平坦面に位置する。規模・形態は長軸1.05m、短軸8.8mの楕円形で検出面からの深さは0.45mを測る。埋土は３層に分層され、堆積状況は自然堆積の様相を示す。遺物は出土していない。時期・用途とも不明である。（福井）

ＳＫ20（第71図）

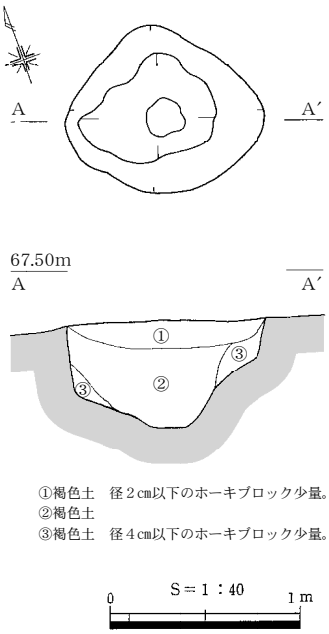
Ｒ13グリッド、標高65.9mの斜面最深部、谷部との境に位置する。検出面での平面形は長軸58㎝、短軸45㎝の楕円形を呈する。南東部に三日月形の平坦面を有し、底面にかけて急に落ち込む。埋土中から土師器片が出土しているが、時期は不明である。（高尾）

ＳＫ21（第72図）

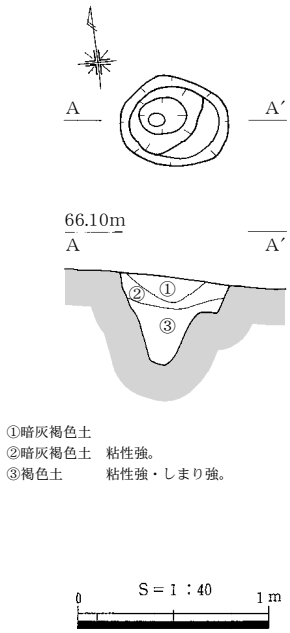
Ｑ～Ｒ13グリッド、標高66.0mの斜面最深部、谷部との境に位置する。平面形は長軸1.28m、短軸0.85mの不整形を呈し、深さは最大で0.38mを測る。埋土中から土師器坏の小片が出土している。周辺遺構の状況からすれば、本遺構の時期は９世紀代と推定される。（高尾）



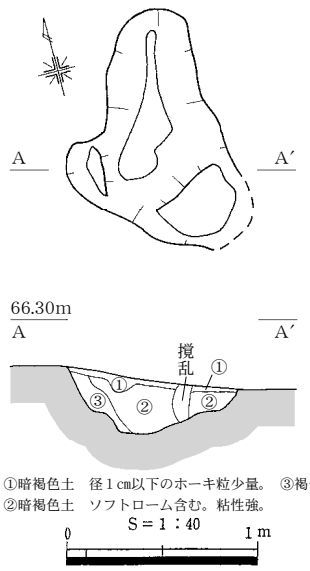
第69図　ＳＫ18



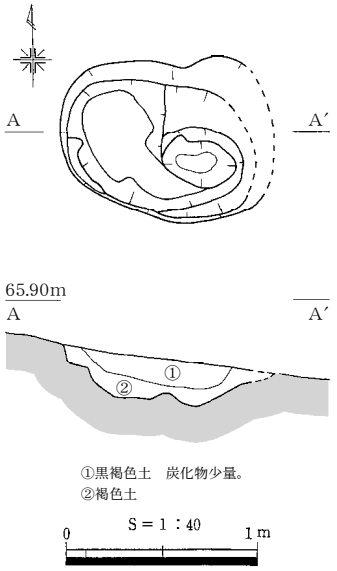
第70図　ＳＫ19



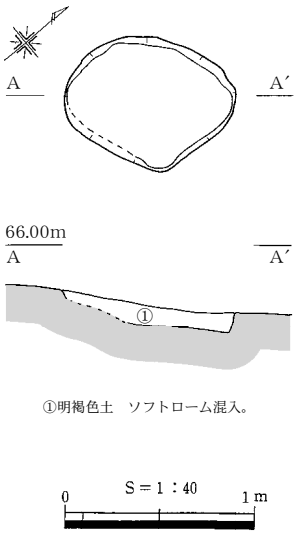
第71図　ＳＫ20



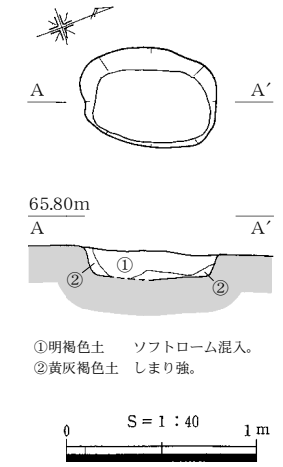
第72図　ＳＫ21



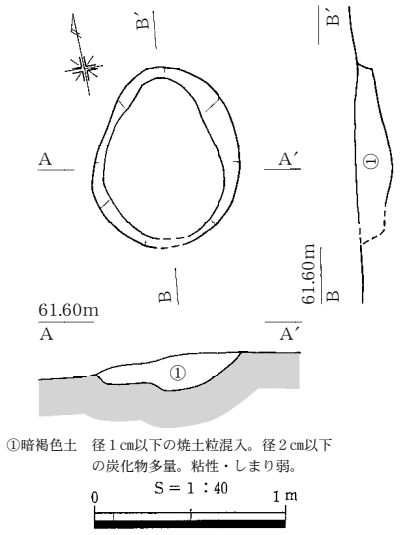
第73図　ＳＫ23



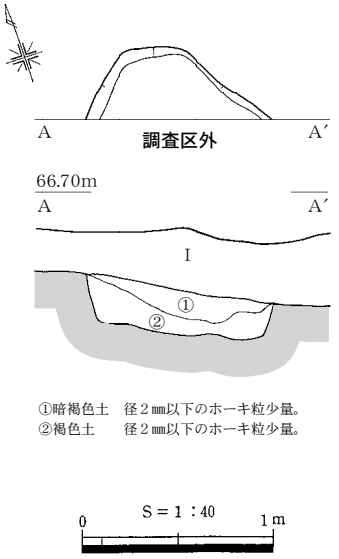
第74図　ＳＫ24



第75図　ＳＫ25



第76図　ＳＫ27



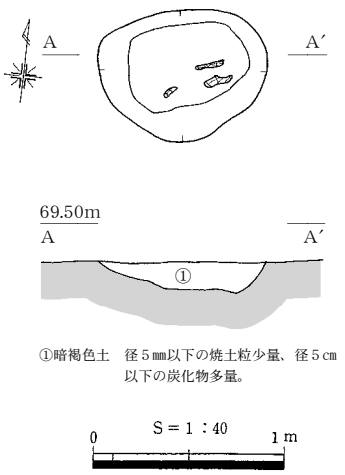
第77図　ＳＫ29

ＳＫ23（第73図）

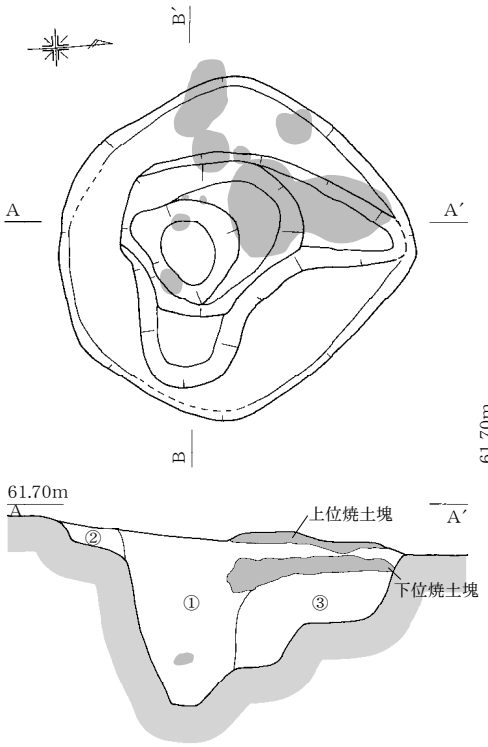
Ｑ13グリッド、標高65.5m～65.7mの丘陵平坦面から谷部へ下った斜面下に位置する。長軸約1.15m、短軸0.8m、検出面からの深さは最大0.37mを測る。平面形態は不整楕円形を呈する。底面は凹凸がみられ不整な形状である。埋土は２層に分層でき、自然堆積によると考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）

ＳＫ24（第74図）

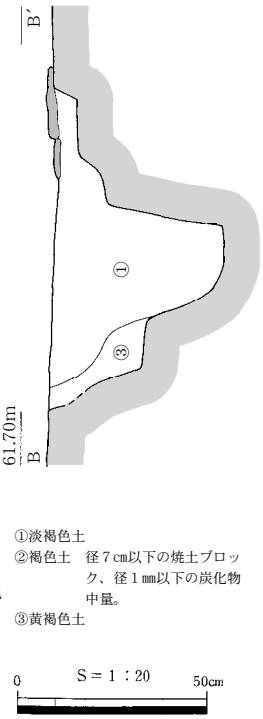
Ｑ13グリッド、標高65.6m～65.7mの丘陵平坦面から谷部へ下る斜面下に位置する。長軸0.9m、短軸0.7m、検出面からの深さは最大0.25mを測る。平面形態は不整楕円形を呈する。埋土は単層で自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）

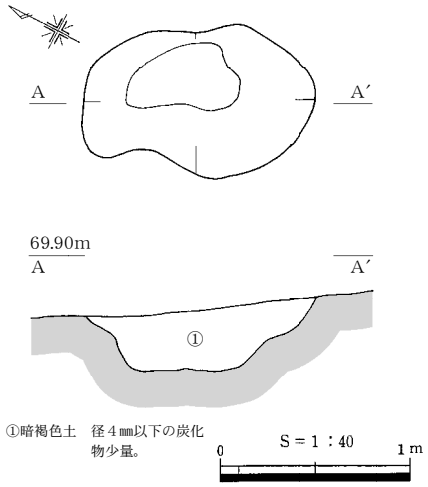


第78図　ＳＫ30

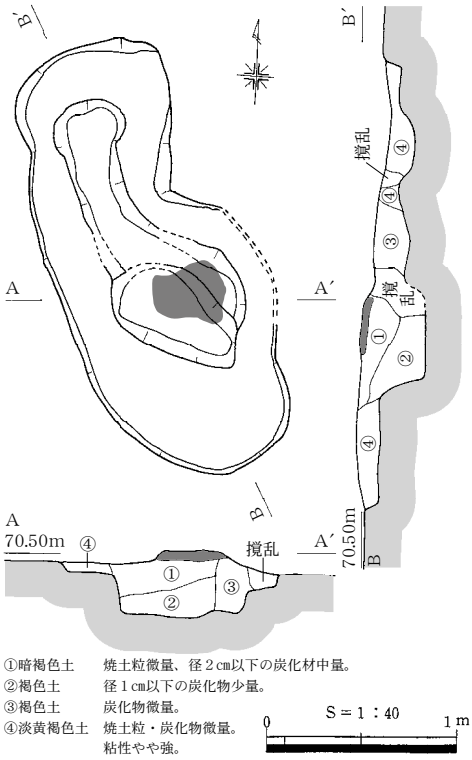


第79図　ＳＫ34





第80図　ＳＫ35



第81図　ＳＫ36

ＳＫ25（第75図）

Ｑ13グリッド、標高65.6mの丘陵平坦面から谷部へ下った斜面下に位置する。長軸0.71m、短軸0.52m、検出面からの深さは最大で0.22mを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は２層に分層でき、自然堆積と考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。　（岩井）

ＳＫ27（第76図）

Ｃ17グリッド、標高61.3mの尾根上に位置する。平面形態は、長軸0.95m、短軸0.80mの楕円形を呈し、検出面からの深さは最大0.2mを測る。埋土は、炭化物や焼土粒子を含む①層暗褐色土が堆積していたが、底面には被熱面などは確認されず、性格不明である。遺物は出土していない。　（小口）

ＳＫ29（第77図）

Ｒ13グリッド、標高66.3mの谷部緩斜面に位置する。調査した規模は長軸51㎝、短軸20㎝、検出面からの深さは16㎝で推定される形態は方形である。時期・用途とも不明である。

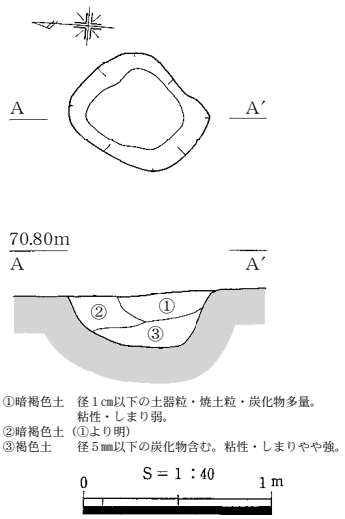
（福井）

ＳＫ30（第78図）

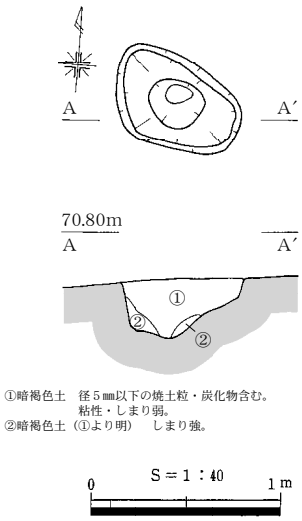
Ｍ４グリッド、標高69.3mの平坦面に位置する。規模・形態は長軸90㎝、短軸70㎝の不整楕円形で検出面からの深さは16㎝を測る。遺物は出土していない。時期・用途とも不明である。　（福井）

ＳＫ34（第79図、PL.18）

Ｍ５グリッド、標高61.6mの丘陵平坦面に位置する。長軸0.94m、短軸0.9m、検出面からの深さは最大で0.5mを測る。検出時の平面形態は不整方形で、底面は一段掘り下がり不整形を呈す。埋土は３層に分層でき、検出面および①層で焼土塊や炭化物粒の混入が認められた。焼土塊は上下で差異が認められ、上位焼土塊は径２cm以下のにぶい赤色、下位は径６～７cmほどの赤橙色で、下位のほうがやや硬化していた。焼土塊は多量の炭や灰・被熱面などを伴っておらず、当遺構で生成されたものではなく、人為的な廃棄と判断される。また、北東側に製炭土坑が３基位置しており、何らかの関係があった可能性が考えられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。（岩井）



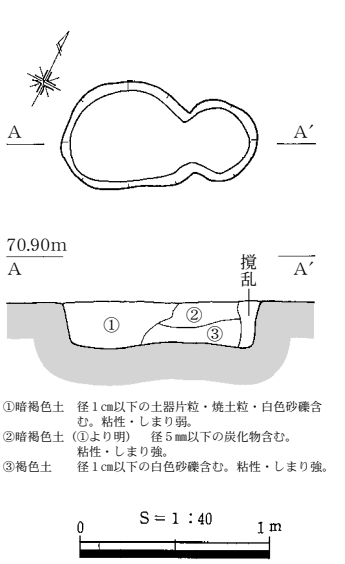
第82図　ＳＫ37



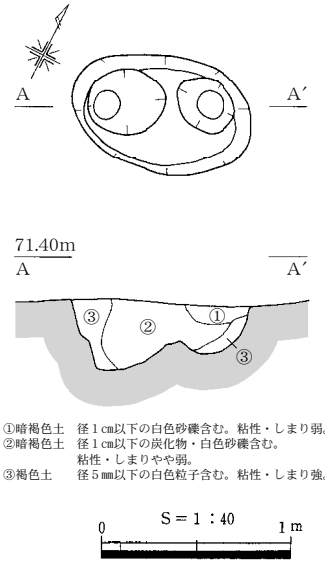
第83図　ＳＫ38

ＳＫ35（第80図）

Ｍ６グリッド、標高69.7m、平坦面に位置する。規模・形態は長軸1.23m、短軸0.77mの不整楕円形で検出面からの深さは0.41mを測る。遺物は出土しておらず、時期・用途は不明である。（福井）



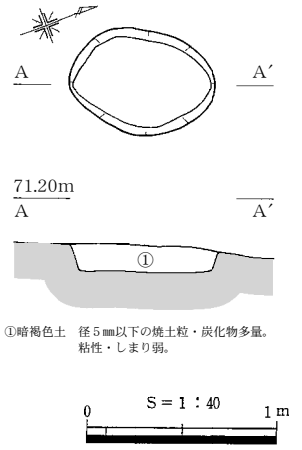
第84図　ＳＫ39



第85図　ＳＫ41

ＳＫ36（第81図）

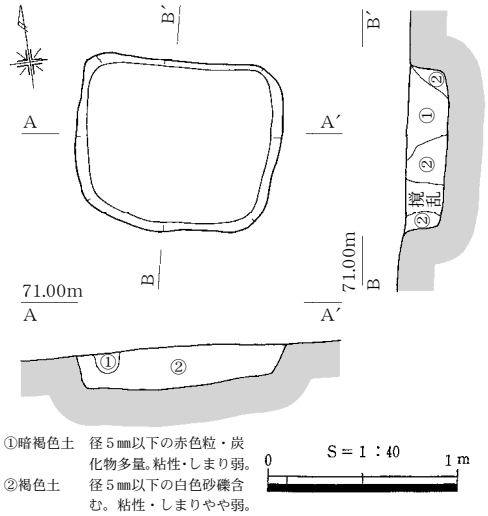
Ｏ５グリッド、標高70.4mの丘陵平坦面に位置する。長軸2.4m、短軸0.83～1.05m、検出面からの深さは最大0.3mを測り、平面形態は不整形を呈する。埋土は４層に分層でき、自然堆積によるものと考えられる。検出面で、炭化材の集中する部分がみられたが、当遺構と直接関わるものでないと考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）



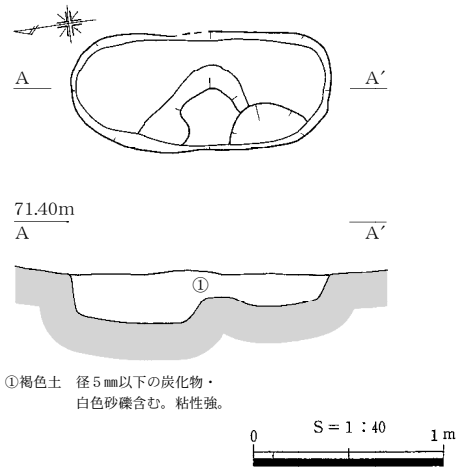
第86図　ＳＫ42

ＳＫ37（第82図）

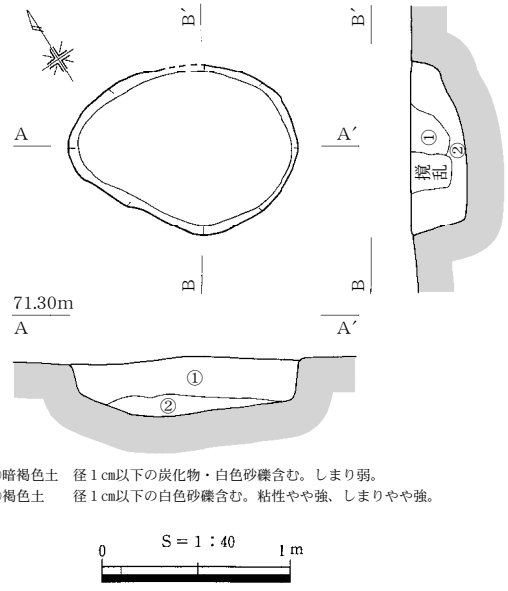
Ｕ９グリッド、標高70.6mの丘陵平坦面に位置する。長軸0.75m、短軸0.62m、検出面からの深さは最大0.3mを測り、平面形態は不整方形を呈する。埋土は褐色土を主体とする３層に分層でき、①・②層では炭化物・焼土粒が混入する。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）



第87図　ＳＫ44



第88図　ＳＫ45



第89図　ＳＫ46

ＳＫ38（第83図）

Ｔ９グリッド、標高70.5ｍの緩斜面に位置する。検出面での平面形は長軸75㎝、短軸47㎝の楕円形を呈し、深さは32㎝を測る。埋土中から土師器片が出土しているが、時期は不明である。（高尾）

ＳＫ39（第84図）

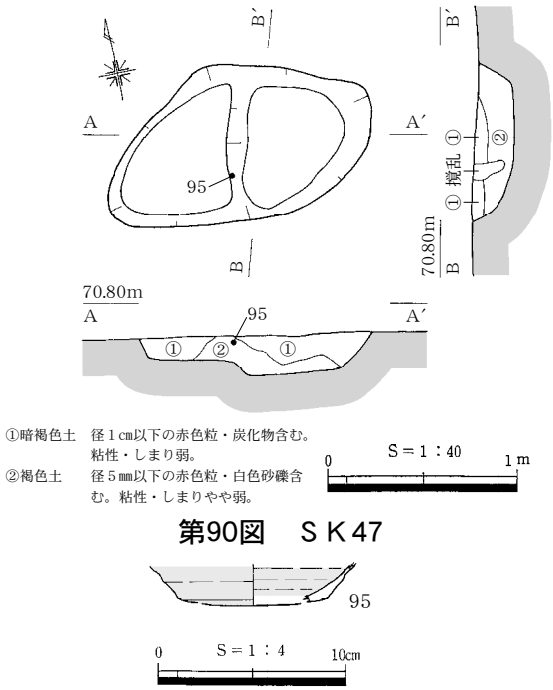
Ｔ９グリッド、標高70.6ｍの緩斜面部に位置する。平面形は瓢箪形を呈し、切り合う２基の遺構を検出した可能性もあるが、別個の遺構としては捉えられなかった。埋土中から土器片が出土しているが、時期は不明である。（高尾）

ＳＫ41（第85図）

Ｕ８グリッド、標高71.2ｍの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸95㎝、短軸60㎝の楕円形を呈する。底面は東西壁際がピット状に窪んでおり、検出面からの深さは最大で43㎝を測る。遺物は出土しておらず、時期は不明である。（高尾）

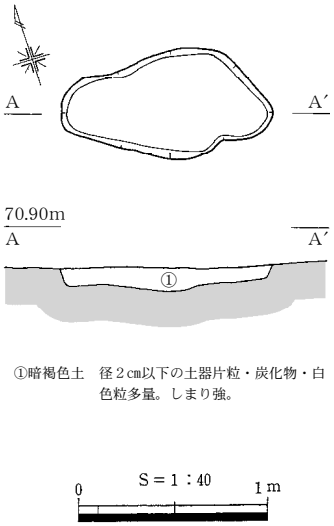
ＳＫ42（第86図）

Ｔ８グリッド、標高70.9ｍの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸78㎝、短軸55㎝の楕円形を呈する。検出面からの深さは11㎝と浅い。遺物は出土しておらず、時期は不明である。（高尾）

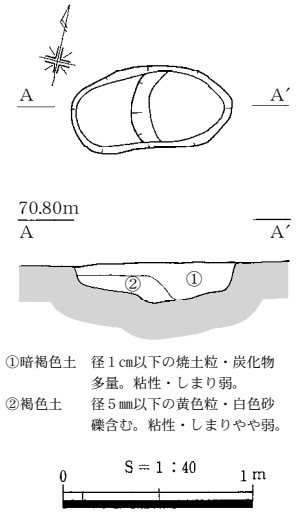


第90図　ＳＫ47

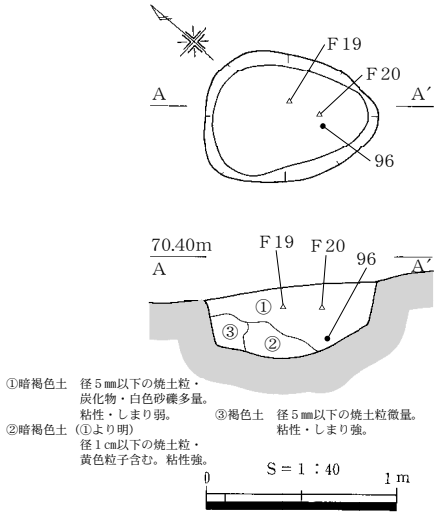
第91図　ＳＫ47出土遺物



第92図　ＳＫ48



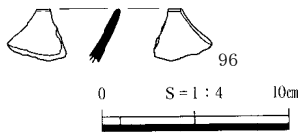
第93図　ＳＫ50



第94図　ＳＫ53

ＳＫ44（第87図）

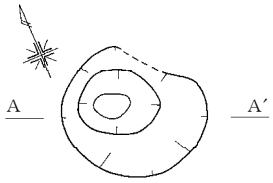
Ｔ９グリッド、標高70.8mの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸1.1m、短軸0.9mの隅丸方形を呈す。①層には多量の炭化物が含まれる。埋土中から土器片が出土したが、時期は不明である。　（高尾）



第95図　ＳＫ53出土遺物

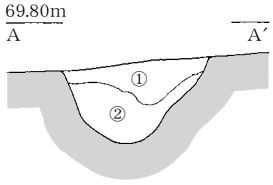
ＳＫ45（第88図）

Ｔ８・Ｕ８グリッドにまたがり、標高71.1mの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸1.37mの長楕円形を呈し、底面は不定形で凹凸がある。埋土中から土器片が出土したが、時期は不明である。　（高尾）

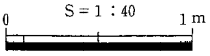


ＳＫ46（第89図）

Ｔ８グリッド、標高71.0mの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸1.21m、短軸0.9mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.27mを測る。遺物は出土しておらず、時期は不明である。　（高尾）



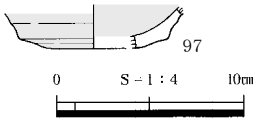
①黒褐色土　径５mm以下の焼土粒・炭化物多量。
②暗褐色土　径５mm以下の焼土粒・炭化物少量。



第96図　ＳＫ54

ＳＫ47（第90・91図、表43、PL.18・37）

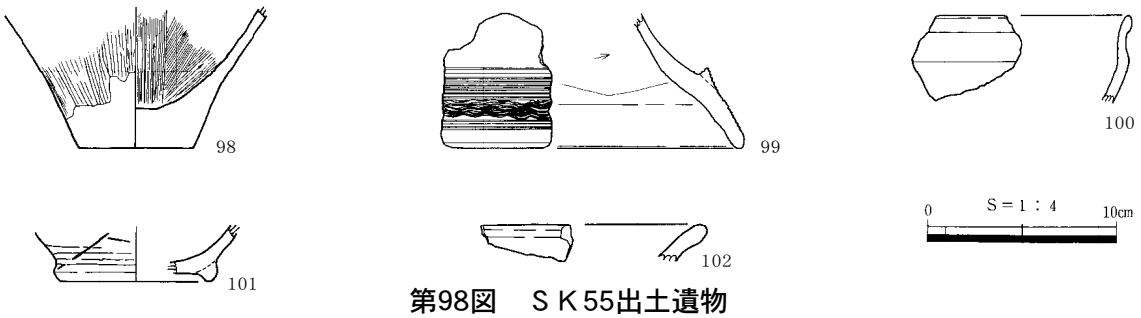
Ｔ９グリッド、標高70.6mの緩斜面に位置する。平面形は長軸1.48mの不整楕円形を呈する。底面は西側にテラス状の低い段を有す。埋土中から出土した土師器坏95は伯耆国庁編年第２段階ＳＤ37様式に比定されることから、本遺構の時期は平安時代前期、９世紀中頃と考えられる。　（高尾）



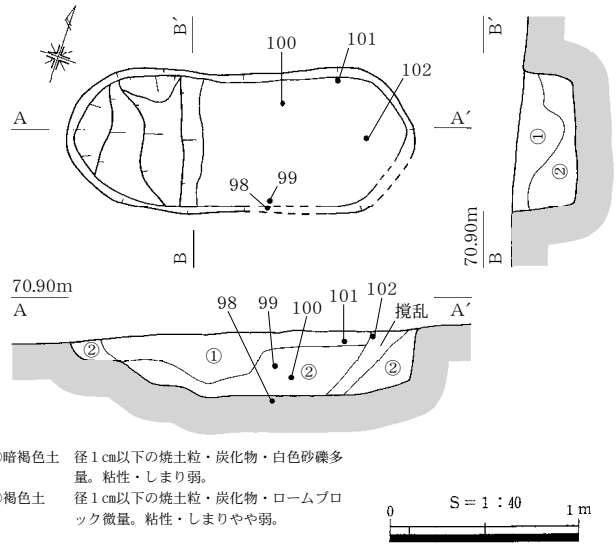
第97図　ＳＫ54出土遺物

ＳＫ48（第92図）

Ｔ８グリッド、標高70.7mの緩斜面に位置する。平面形は不整形を呈す浅い土坑でＳＩ２の南端を切る。埋土は焼土粒を含む暗褐色土で、ＳＩ２①層と同質である。図化に耐えないが土師器片が出土しており、埋土および周辺遺構の状況から考えても９世紀代の遺構である可能性が高い。　（高尾）



第98図　ＳＫ55出土遺物



第99図　ＳＫ55

ＳＫ50（第93図）

Ｔ９グリッド、標高70.5mの台地平坦面に位置する。平面形態は、長軸0.84m、短軸0.44mの楕円形を呈す。検出面からの深さ0.15m、底面は東側が一段低くなり段状となっている。遺物は出土していないが、炭化物・焼土粒子を含む埋土の特徴から９世紀代に廃絶されたものと思われる。（小口）

ＳＫ53（第94・95図、表43、PL.19・37・50）

Ｔ９グリッド、標高70.3mの台地平坦面に位置する。平面形態は、長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形を呈す。断面形態は擂り鉢状であり、検出面からの深さ最大42cmを測る。埋土は①・②層暗褐色土と③層褐色土から構成される。底面付近から含鉄鉄滓Ｆ19と鍛冶滓Ｆ20、①層下部から須恵器坏96が出土している。Ｆ19は分析の結果、製錬滓であることが明らかとなっている（ＮＭＨ－3）。（小口）

ＳＫ54（第96・97図、表43）

Ｓ10グリッド、標高69.6mの緩斜面上に位置する。平面形態は、長軸0.75m、短軸0.6mの楕円形を呈している。埋土中から、土師器坏底部97が出土している。（小口）

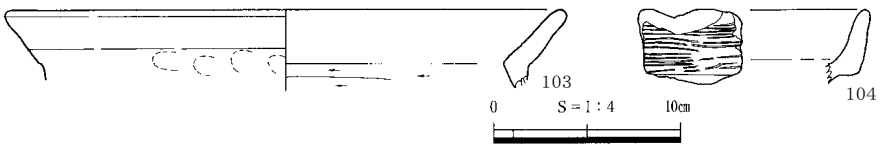
ＳＫ55（第98・99図、表43、PL.36・37）

Ｔ８グリッド、標高70.7mの緩斜面に位置する。平面形は長軸1.83mの長楕円形を呈す。埋土中

表43　ＳＫ47・53～56出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
95	ＳＫ47 埋土	土師器 坏	底径※7.9 △2.2	1/6	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	緻密　1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	内外面赤色塗彩
96	ＳＫ53 埋土	須恵器 坏	－ △2.8	口縁部1/8 以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1mm以下の白色砂粒	外面：オリーブ灰～緑灰色 内面：オリーブ灰色	堅緻	
97	ＳＫ54 埋土	土師器 坏	底径※5.0 △2.2	底部1/7	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密　2mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
98	ＳＫ55 底面直上	弥生土器 底部	底径6.1 △7.4	底部は完存	外面：板状工具によるナデ、底面丁寧なナデ 内面：ヘラケズリ後板状工具によるナデ	密　2～3mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色～にぶい黄橙色	良好	底部黒斑有り
99	ＳＫ55 埋土	弥生土器 器台	－ △8.1	脚裾部1/4 以下	外面：裾部多条平行沈線後波状文、脚部ナデ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密　2mm以下の石英	外面：橙色 内面：浅黄橙色	良好	
100	ＳＫ55 埋土	縄文土器 鉢	※16.6 △4.6	口縁部1/4 以下	外面：ナデ 内面：ミガキ？	密　2mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：明褐色	良好	摩滅顕著、煤付着
101	ＳＫ55 埋土	縄文土器 底部	底径※8.0 △2.9	底部1/6 以下	外面：ナデ、底面ケズリ 内面：ナデ	密　1mmほどの白色砂礫	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	胎土中に炭化種子
102	ＳＫ55 埋土	土師器 甕	－ △2.0	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	緻密　径１mmほどの白色砂礫	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
103	ＳＫ56 ３層	土師器 甕	※29.3 △4.2	1/6	外面：口縁部ヨコナデ、頸部一部にユビオサエ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1mm以下の白色砂粒	外面：橙～にぶい黄橙色 内面：橙～にぶい黄橙色	良好	
104	ＳＫ56 ３層	弥生土器 甕	－ △3.9	口縁部 1/10以下	外面：木口状工具による平行沈線 内面：ヨコナデ	密　2mm以下の白色砂粒・石英	外面：浅黄橙色 内面：灰色	良好	摩滅顕著、煤付着

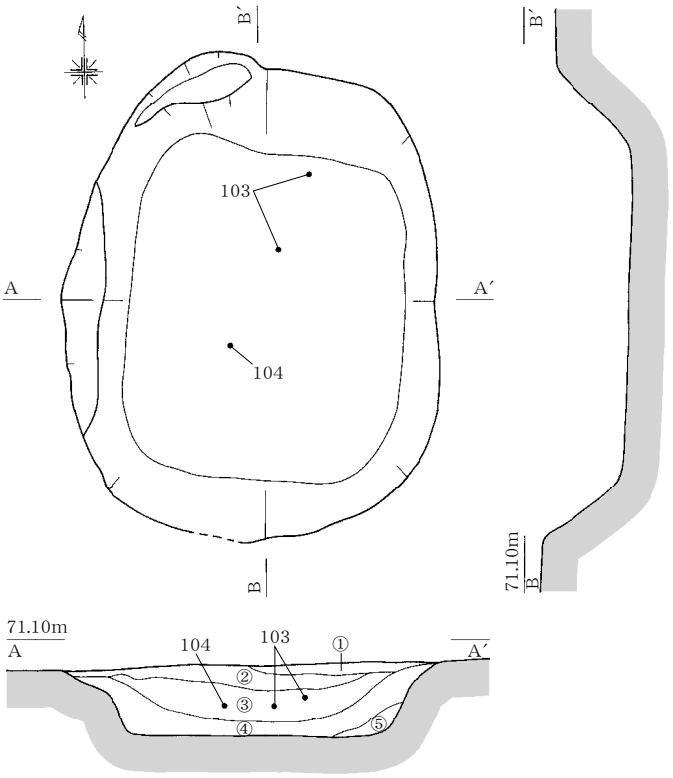
から出土した99は清水編年Ｖ－３様式に比定され、本遺構の時期は弥生時代後期後葉と考える。102は検出面付近から出土した混入品である。　（高尾）



第100図　ＳＫ56出土遺物

ＳＫ56（第100・101図、表43、PL.19・37）

Ｓ８・Ｔ８グリッドにまたがり、標高70.9mの丘陵平坦面に位置する。地山ブロックが混じる④・⑤層によって下半が埋没した後窪地状となり、そこに黒褐色系の①～③層が堆積している。④層出土土器がすべて土師器・須恵器であるのに対し、③層出土土器は流れ込みの弥生土器を主体とする。土師器甕103や周辺遺構の状況から、本遺構の時期は平安時代前期、９世紀代と推定される。　（高尾）



①暗灰褐色土　径１cm以下の赤色粒・白色砂礫多量。粘性・しまり弱。
②黒褐色土　径１cm以下の炭化物・白色砂礫含む。粘性弱・しまりやや弱。
③黒褐色土　径１cm以下の赤色粒・白色砂礫含む。粘性やや強・しまりやや強。
④暗褐色土　径１cm以下の赤色粒・白色砂礫含む。径５cm以下のロームブロック含む。粘性・しまり強。
⑤褐色土　（壁面崩落土）ソフトロームと④の混合土。粘性・しまり強。

S＝1：40　0　1m

第101図　ＳＫ56

ＳＫ57（第102図）

Ｓ８グリッド、標高70.9mの丘陵平坦面に位置し、ＳＫ56に近接する。平面形は長軸1.31mの不整楕円形を呈す。時期・用途は不明である。　（高尾）

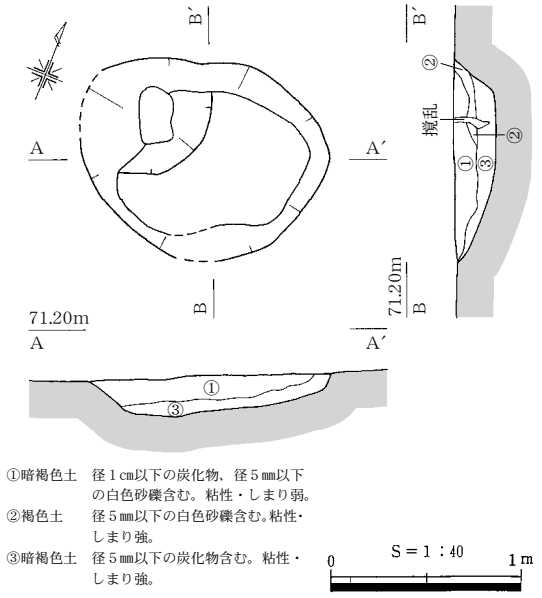
ＳＫ59（第103図）

Ｔ９グリッド、標高70.2mの台地平坦面上に位置する。平面形態は、長軸0.9m、短軸0.8mの楕円形を呈している。断面形態は、桶状を呈し底面に２基の小ピットが確認された。検出面から底面ピットまでの深さは最大41cmを測る。遺物は出土していない。　（小口）

ＳＫ60（第102図）

Ｔ10グリッド、標高69.9mの台地緩斜面上に位置する。平面形態は、長軸1.02m、短軸0.52mの楕円形を呈している。断面形態は、東西に窪みを呈し、検出面からの深さ最大26cmを測る。埋土は、炭化物・焼土粒子を含む暗褐色土が堆積している。遺物は出土していない。

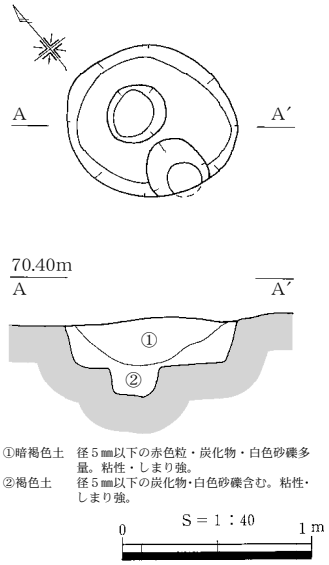
（小口）



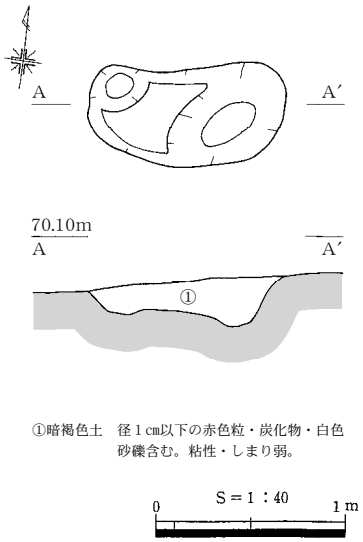
①暗褐色土　径１cm以下の炭化物、径５mm以下の白色砂礫含む。粘性・しまり弱。
②褐色土　径５mm以下の白色砂礫含む。粘性・しまり強。
③暗褐色土　径５mm以下の炭化物含む。粘性・しまり強。

S＝1：40　0　1m

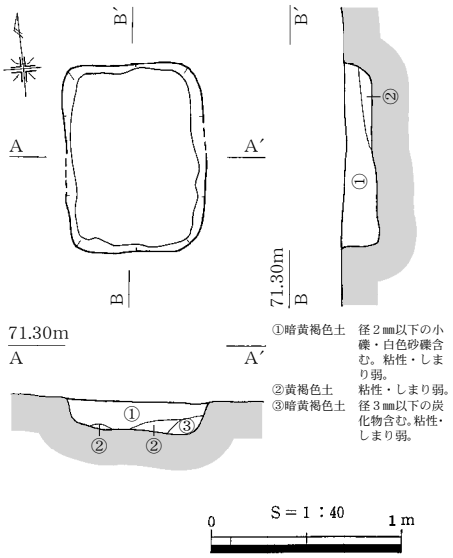
第102図　ＳＫ57



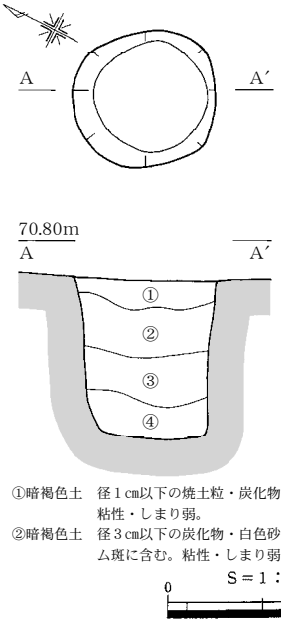
第103図　ＳＫ59



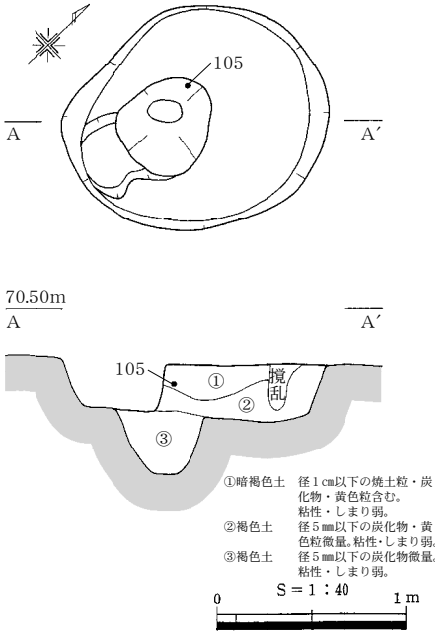
第104図　ＳＫ60



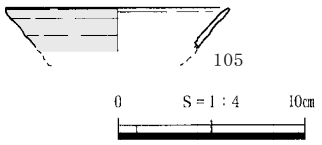
第105図　ＳＫ61



第106図　ＳＫ64



第107図　ＳＫ65



第108図　ＳＫ65出土遺物

ＳＫ61（第105図）

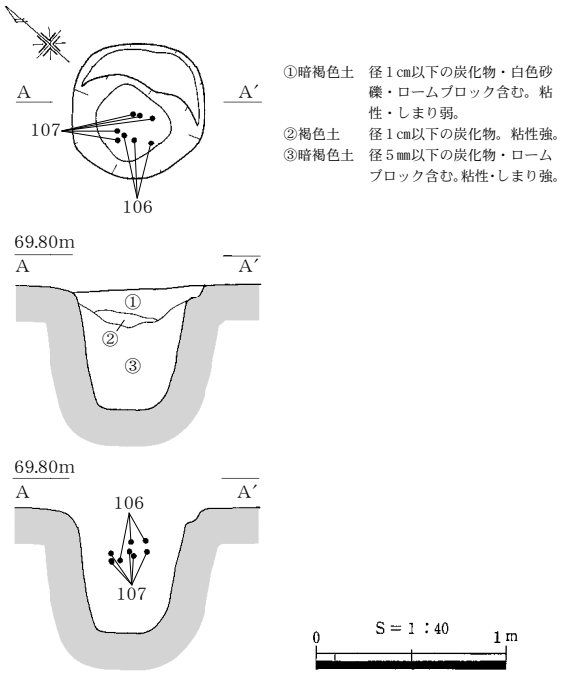
Ｓ６グリッド、標高71.0mの丘陵平坦面に位置する。平面形は長軸1.0m、短軸0.75mの隅丸方形を呈し、深さは0.2mを測る。遺物は出土しておらず、時期は不明である。　（高尾）

ＳＫ64（第106図、PL.19）

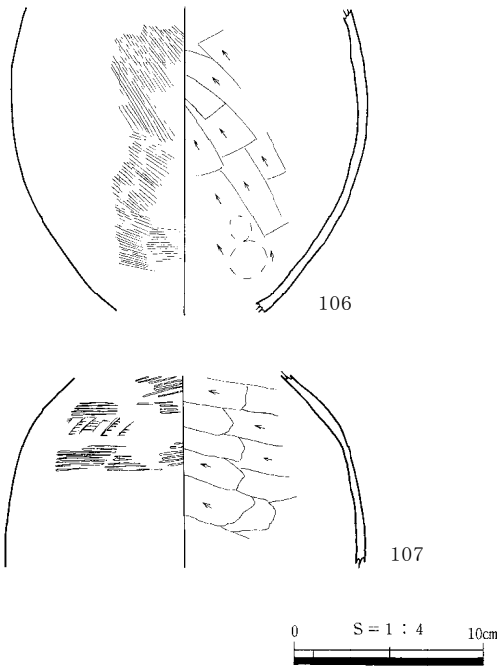
Ｑ６グリッド、標高70.6mの丘陵平坦面に位置する。ＳＩ４の床面で検出した。径0.75m前後で、検出面からの深さは最大0.84mを測る。埋土は4層に分層でき、自然堆積によるものと考えられる。上位２層はしまりのある粘性土で、住居跡の床面の一部であったことから踏み締まったものと考えられる。また、当遺構を削平するＳＩ４・５の堆積土とは異なり、いずれの遺構にも属するものではない。遺物は出土していないが、住居跡以前に機能し埋没したと考えられ、形態的特徴から落し穴と考えられる。　（岩井）

ＳＫ65（第107・108図、PL.37）

Ｔ９グリッド、標高70.2mの台地平坦面に位置する。平面形態は、長軸1.5m、短軸1.15mの楕円形を呈している。底面中央には径50㎝のピットが認められ、検出面からの深さは63㎝を測る。①層から土師器坏105が出土していることから、９世紀代に廃絶されたものと思われる。　（小口）



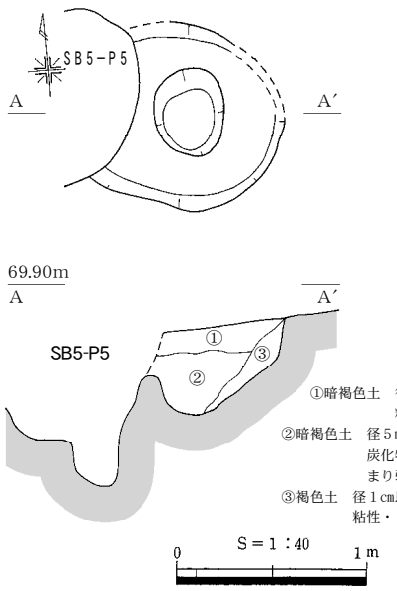
第109図　ＳＫ66



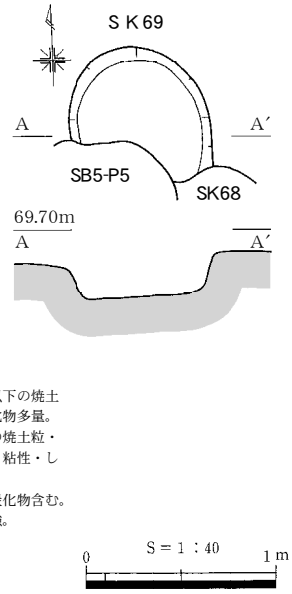
第110図　ＳＫ66出土遺物

表44　ＳＫ65・66出土土器観察表

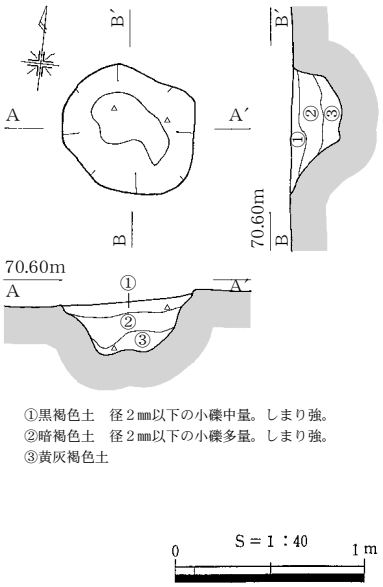
遺物№	遺構 層位	器種	口径(㎝) 器高(㎝)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
105	ＳＫ65 埋土	土師器 坏	－ △2.3	口縁部1/4 以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	緻密　径１㎜以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	内外面赤色塗彩
106	ＳＫ66 埋土	弥生土器 胴部	－ △16.7	1/4以下	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ、底部付近ユビオサエ	密　0.5～２㎜ほどの砂粒	外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色～灰黄褐色	良好	表面に炭化物付着
107	ＳＫ66 埋土	弥生土器 胴部	－ △10.1	1/6	外面：肩部多条平行沈線・板状工具押引文、胴部風化のため調整不明 内面：ヘラケズリ	密　１～３㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：明黄褐色	良好	胴部外面煤付着



第111図　ＳＫ68



第112図　ＳＫ69



第113図　ＳＫ71

ＳＫ66（第109図、PL.19）

Ｔ10グリッド、標高約69.65mの東山緩斜面上に位置し、ＳＩ３を切っている。平面形は、長軸70.2m、短軸70.0mの円形を呈し、検出面からの深さ最大60.4㎝を測る。埋土中から、弥生土器甕体部106・107が出土していることから、弥生後期後葉に帰属するものと思われる。　（小口）

ＳＫ68・69（第111・112図）

Ｔ10グリッド、標高約69.7mの東山緩斜面上に位置し、Ｐ68・69ともにＳＢ５-Ｐ５に切られて

いる。ＳＫ68は長軸0.98m、短軸0.78m、検出面からの深さは0.48mを測る。ＳＫ69は長軸98㎝、短軸80㎝の楕円形を呈し、検出面からの深さは最大20㎝を測る。時期・性格とも不明である。(小口)

ＳＫ71（第113図）

Ｒ８グリッド、標高70.5mの丘陵平坦面に位置する。長軸0.71m、短軸0.65m、検出面からの深さは最大0.3mを測り、平面形態は不整楕円形を呈する。②層中から鉄滓が２点出土しているが、製鉄・鍛冶関連遺物の出土地域に近く、周辺からの流入によるものと考えられる。その他に遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）

ＳＫ72（第114図）

Ｑ・Ｒ９グリッド、標高69.4mの緩斜面に位置する。長軸2.28m、短軸1.32mの平面不整形を呈し、深さ0.15mを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、自然堆積したと考えられる。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（高尾）

ＳＫ73（第115図）

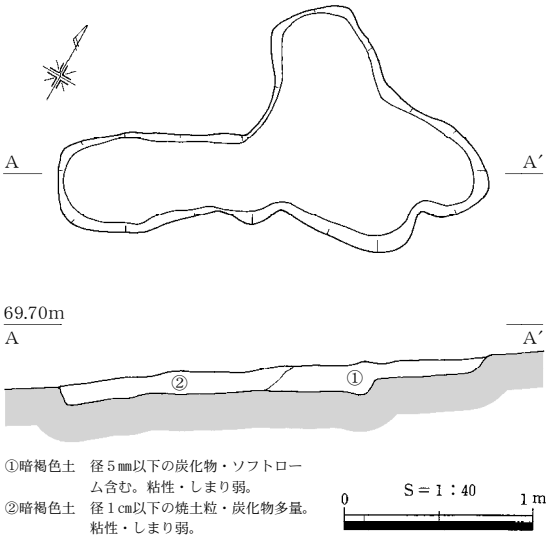
Ｑ９グリッド、標高69.5mの緩斜面に位置する。長軸1.28m、短軸1.1m、検出面からの深さは最大0.23mを測り、平面形態は不整楕円形を呈する。埋土は２層に分層できた。遺物は出土しておらず、時期・性格とも不明である。（岩井）

ＳＫ74（第116図）

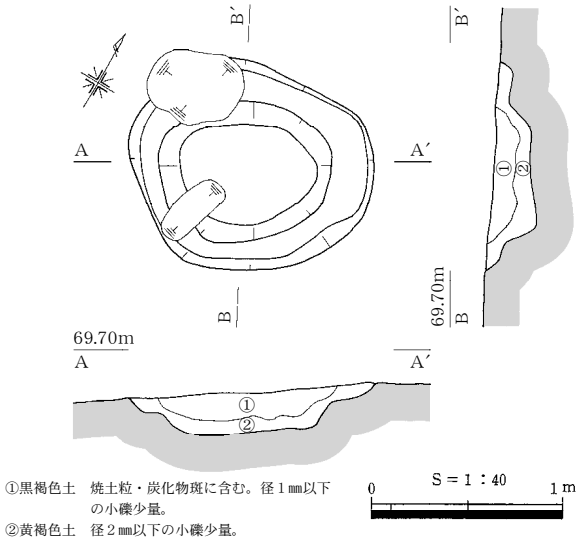
Ｑ10グリッド、標高68.2mの傾斜変換点に位置する。平面形は長軸1.16mを測る楕円形を呈す。埋土は自然堆積したものとみられる。出土遺物はなく、時期・性格とも不明である。（高尾）

ＳＫ75（第117図）

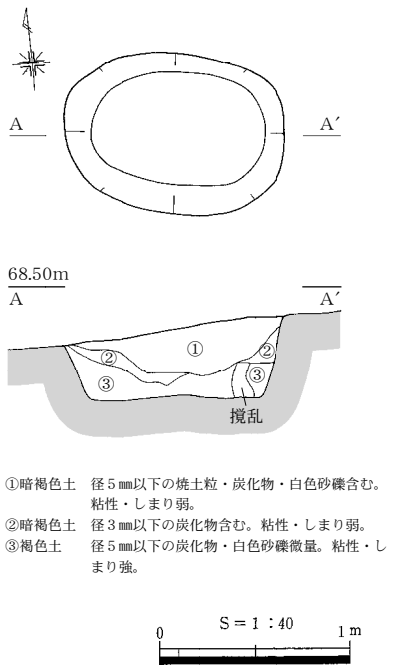
Ｒ10グリッド、標高68.4～68.7mの緩斜面に位置する。平面形は長軸1.9mの楕円形を呈す。底面は南西側がやや低くなり、そこに③層が堆積して埋没していく。遺物は出土しておらず、時期・性格



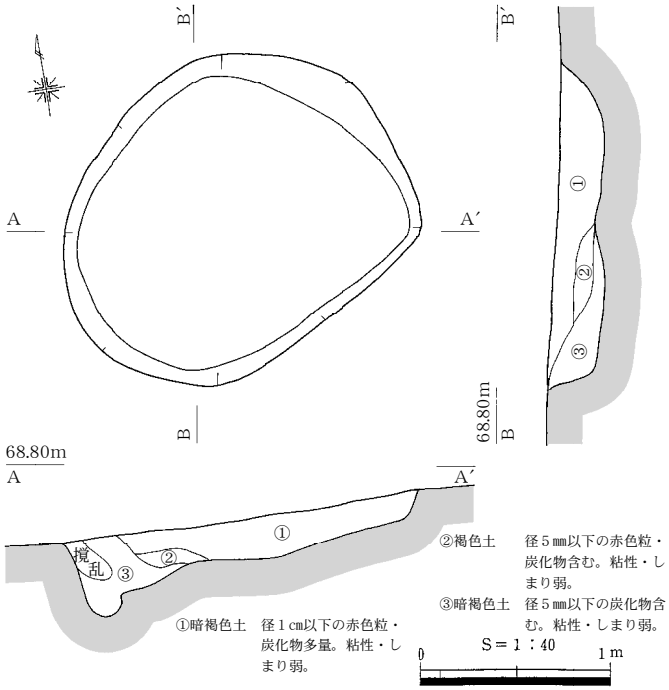
第114図　ＳＫ72



第115図　ＳＫ73



第116図　ＳＫ74



第117図　ＳＫ75

とも不明である。　（高尾）

ＳＫ76（第118・119図、表45、PL.20・36）

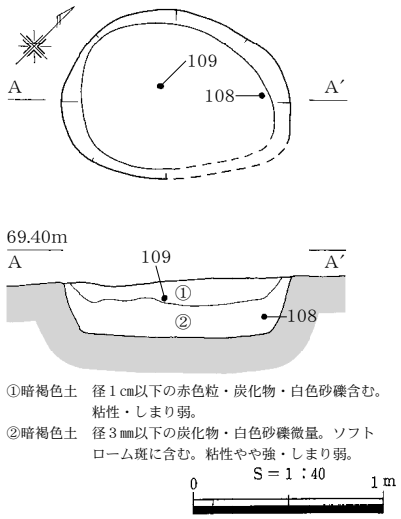
Ｔ11グリッド、標高69.2ｍの谷部に面した傾斜変換点に位置し、ＳＫ77に切られる。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈す。埋土はⅡ層に近似し、自然堆積の様相を示す。土師器甕110および埋土、周辺遺構の状況から、平安時代前期、９世紀代の遺構と推測する。　（高尾）

ＳＫ77（第120・121図、表45、PL.37）

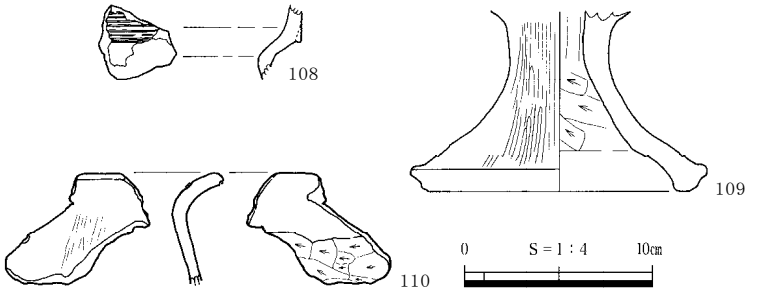
Ｔ11グリッド、標高69.3ｍの傾斜変換点に位置し、ＳＫ76を切る。平面形は長軸1.08を測る楕円形で、①層には焼土粒を含む。土師器坏111が出土しており、９世紀代の遺構と考えられる。　（高尾）

ＳＫ78（第122図、PL.20）

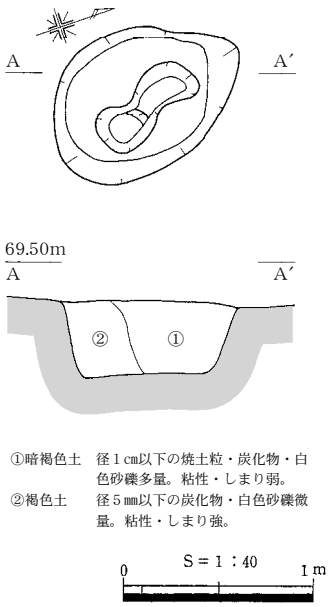
Ｓ９グリッド、東山南寄り、標高約70.1ｍの平坦面に位置する。平面形態は、長軸3.23ｍ、東西1.5ｍの楕円形を呈し、検出面からの深さは最大0.29ｍを測る。北寄りに不整形の土坑が穿たれ、③層褐色土と④層暗褐色土が堆積している。焼土粒・炭化物を密に含む



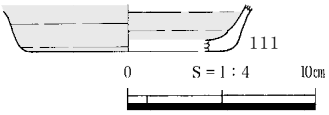
第118図　ＳＫ76



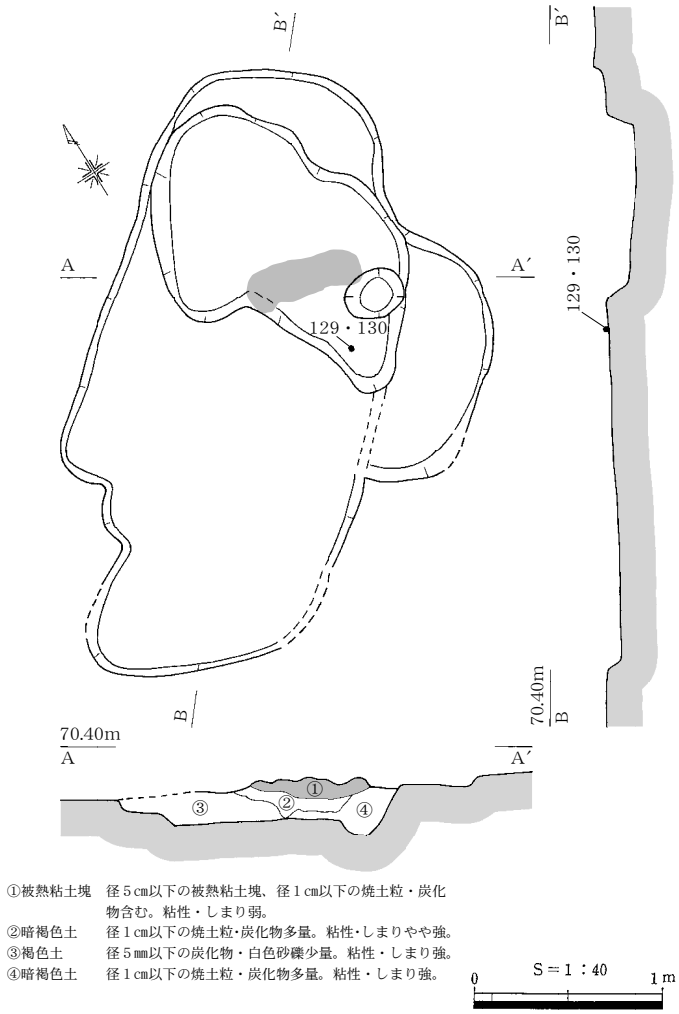
第119図　ＳＫ76出土遺物



第120図　ＳＫ77



第121図　ＳＫ77出土遺物



第122図　ＳＫ78

表45　ＳＫ76・77出土土器観察表

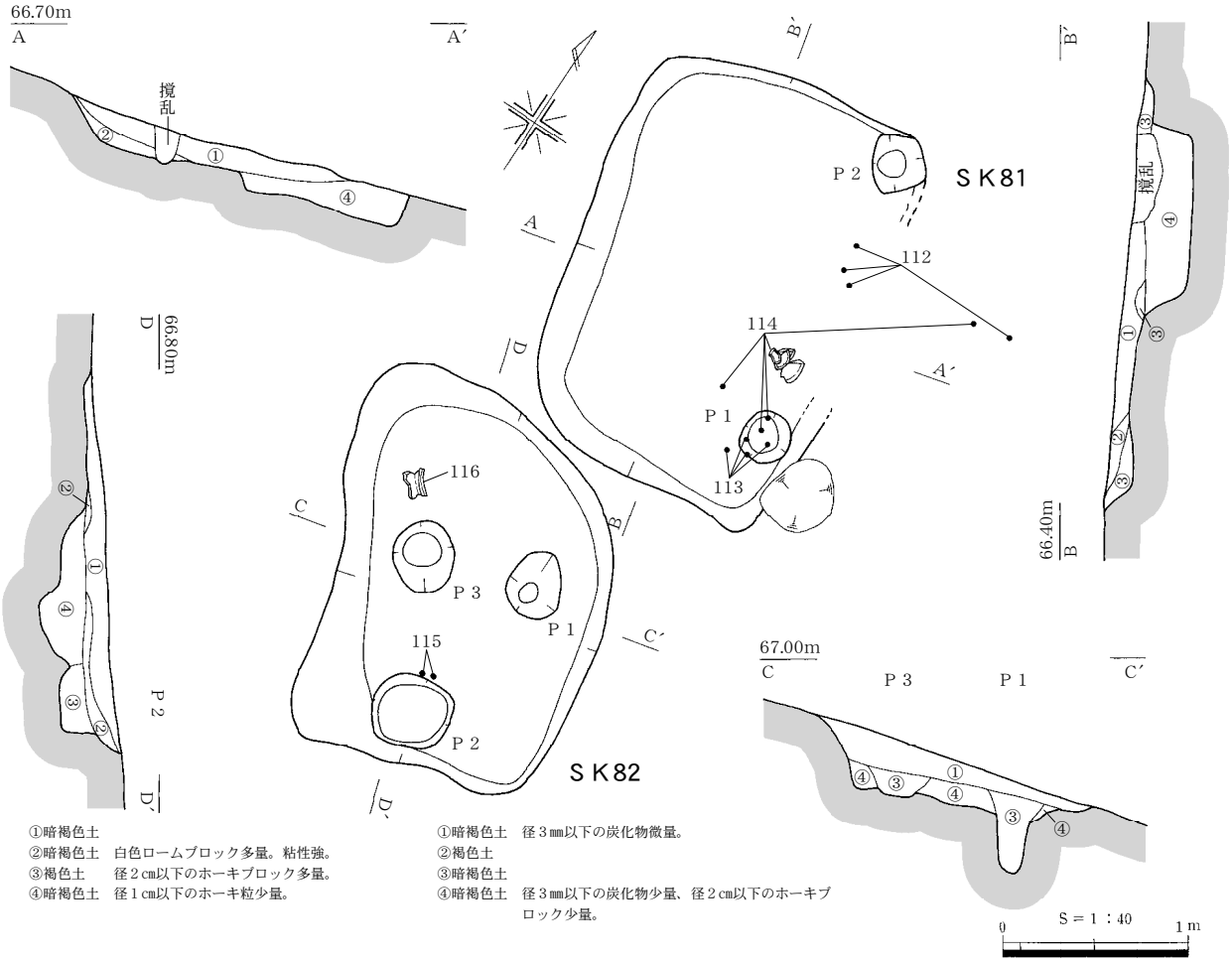
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
108	ＳＫ76 埋土	弥生土器 甕	－ △3.8	口縁部 1/10以下	外面：口縁部多条平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密　４～５mmの石英含む	外面：明黄褐色 内面：黄橙色	良好	
109	ＳＫ76 埋土	弥生土器 高坏	底径※14.0 △9.5	脚部1/4 以下	外面：脚柱部ミガキ、裾部ナデ 内面：脚柱部ケズリ、裾部ナデ	密　２mm以下の白色・赤褐色砂粒	外面：黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
110	ＳＫ76 埋土	土師器 甕	－ △5.8	1/4以下	外面：口縁ヨコナデ、頸部タテハケ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリ	密　0.5～１mmの黒色・白色砂粒	外面：灰黄色 内面：浅黄橙色	良好	
111	ＳＫ77 埋土	土師器 坏	底径※10.2 △2.4	1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	内外面赤色塗彩

②層上面に径0.2×0.6mの被熱粘土塊が認められた。原地性のものと考えられるが、被熱粘土塊の性格は不明である。（小口）

ＳＫ81・82（第123・124図、表46、PL.20・21・36・38）

Ｊ７グリッド、標高66.5mの谷部斜面に位置する。規模・形態は、ＳＫ81が長軸2.3m、短軸1.57mの隅丸方形で検出面からの深さは0.33m、ＳＫ82は長軸2.05m、短軸1.45mの不整隅丸方形で検出面からの深さは0.26mを測る。埋土の堆積状況は自然堆積の様相を示す。また、それぞれピットが付随するが、柱穴かどうか判然としない。遺物は清水編年Ｖ－２・３様式に属する土器が多数出土したが、いずれも廃絶後の流れ込みである。112・113は甕で口縁部に多条平行沈線、頸部に連続刺突文を施文する。114は器台で受部および裾部に多条平行沈線、脚部には透かしが施される。115・116は甕で116には赤色塗彩がみとめられる。時期は出土遺物より弥生時代後期後葉と考えられる。

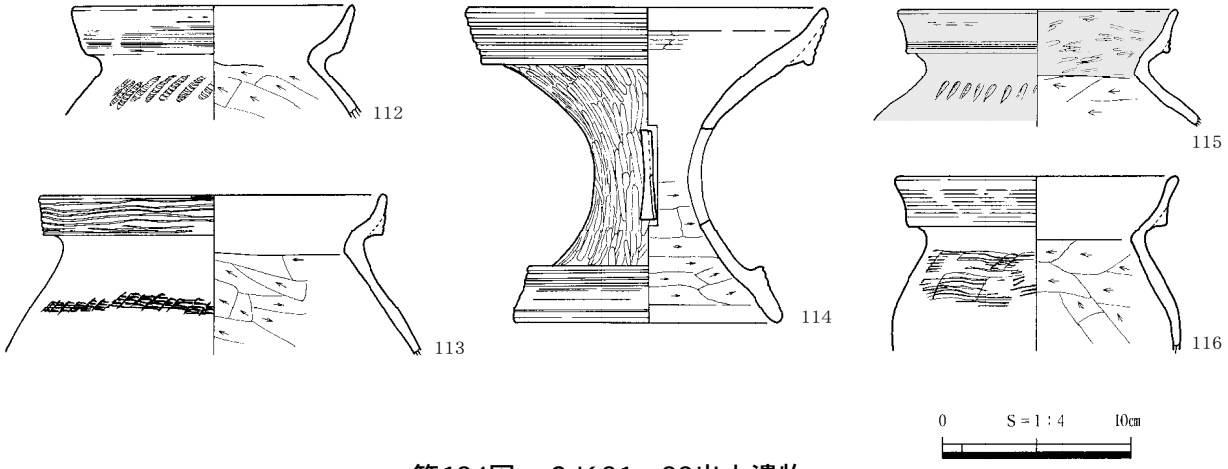
（福井）



①暗褐色土
②暗褐色土　白色ロームブロック多量。粘性強。
③褐色土　　径２cm以下のホーキブロック多量。
④暗褐色土　径１cm以下のホーキ粒少量。

①暗褐色土　径３mm以下の炭化物微量。
②褐色土
③暗褐色土
④暗褐色土　径３mm以下の炭化物少量、径２cm以下のホーキブロック少量。

第123図　ＳＫ81・82



第124図　ＳＫ81・82出土遺物

表46　ＳＫ81・82出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
112	ＳＫ81 ２層	弥生土器 甕	※14.2 △5.9	口縁部1/6	外面：口縁部貝殻腹縁による多条平行沈線、頸部ヨコナデ、肩部貝殻による刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリ	密　１～２mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色～橙色 内面：にぶい黄橙色～浅黄橙色	良好	
113	ＳＫ81 ２層	弥生土器 甕	※18.2 △8.5	口縁～肩部 1/3	外面：口縁部７条の多条平行沈線、頸～肩部ナデ、肩部押引文 内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリ	密　１～２mmの白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：にぶい橙～明黄褐色	良好	外面全体煤付着
114	ＳＫ81 埋土	弥生土器 器台	18.6 16.7	2/3	外面：口縁・脚裾部６条１単位の多条平行沈線、受～脚部ヘラミガキ、透孔３箇所？ 内面：受部ヨコナデ・ミガキ、筒～脚部ヘラケズリ、脚裾部ナデ	密　１mmほどの白色砂礫	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
115	ＳＫ82 埋土	弥生土器 甕	※14.6 △5.9	1/2以下	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ消し、頸部二枚貝による連続刺突文 内面：口縁部ナデ後ミガキ、頸部以下ケズリ	密　２mm以下の砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	口縁部内外面赤色塗彩
116	ＳＫ82 ２層	弥生土器 甕	※14.6 △9.2	1/4	外面：口縁部８条の多条平行沈線後ナデ消し、肩部押引文 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　１～２mmの砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	口縁部外面煤付着